

平成 29 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	北広島町立芸北中学校		
学校長氏名	山田 正彦	栄養教諭氏名	松村 歌織
職員数	14名	児童・生徒数	56名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

- それぞれの職員が食育に取り組んでいるが、それを関連付けた取組につなげることができていない。
- 給食で残菜は無いに等しいが、苦手ものを減らす、または全く食べないといった様子がみられる。
- ランチルームで給食を食べているが、食器を正しい位置に置くことや、食事のあいさつ、適切な声の大ききさで会話することなどのマナーを意識して食事ができている。しかし、時間を意識した行動ができにくい生徒もいる。
- 芸北の食材への知識はあり、給食へ積極的に利用していることは理解している。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- 望ましい食事の仕方や食習慣を理解し、自らの健康の保持増進をしようとする生徒の育成。
 - ・食事のマナーを意識して食事ができる生徒 90%以上
 - ・食事作りに関わる生徒 60%以上

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 「つなぐ」食育の取組

- 研究部が中心となって、学習指導要領に記載されている食育に関わる内容について校内研修を行った。そのことを受け各教科担当が単元と食に関する指導の目標6つを関連づけるような表を作成した。全職員が様々な場で、「食育」について意識した指導ができるように取り組んだ。
- 給食の時間に、給食当番が時間を意識して活動するに取り組んだ。まず、栄養教諭が給食当番の仕事の重要性などを説明し、開始時刻と終了時刻を固定する趣旨を説明した。その後、保健体育委員が時刻を意識してあいさつをするようにし、給食の時間にメリハリをつけた。このように、栄養教諭の指導を保健体育委員会の活動と関連付け、よくかむことやエプロンをきれいにたたむことなどについても継続的に取り組んだ。
- 2年生で「食べることについて考えよう」という学習をした後、給食時間の生徒の様子に変化が見られなかったことから、暮会で重ねて指導を行い、学級通信にも指導内容を載せた。

【取組2】（テーマ） 調理への関心を高める取組

- 北広島町夢プロジェクトの一環として実施される北広島町「夢プロ給食」給食メニューコンテストへ、全校で応募するよう取り組んだ。
- 2年生家庭科単元「食生活と栄養」に、担当教諭と共にTTで取り組んだ。家庭科教諭より、学校給食に取り入れることを前提に調理実習の計画をしたいという意向があり、それを受けて取り組んだ。給食に出すメニューの選考は、生徒が献立の特徴などをまとめたものを掲示し、投

票で決定した。

○2年生は夏休みの課題で食事作りに取り組んだ。レポートは、夏休み明けの芸中祭で掲示し交流を図った。

○食育だよりに、簡単にできる給食メニューを載せ、生徒・保護者に情報提供した。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

○ひろしま給食について「食育だより」を作成し、各家庭に配布。裏面には、県教委から配布されたレシピを再び印刷した。

○ひろしま給食が給食に出る日がわかるように献立表に表示をした。

○給食時間に使用する指導資料で、100万食プロジェクトの趣旨の説明や、献立について紹介をした。

○北広島町食育推進部会で、統一メニューの主菜を決定。北広島町の取組「夢プロ給食メニュー」と組み合わせたものにした。

○町内の各施設でスムーズに調理が行われるように、夏季休業中に実施される調理員研修会には、ひろしま給食の調理実習を組み込んだ。試食後、調理方法や味つけについて意見交流を行った。

5 取組に対する成果と課題

【成果】

○「食事の時にマナーを守っている」と肯定的な回答をしている生徒は、96%だった。

○嫌いな食べ物があると答えた生徒は100%で、年間通じて変化はなかったが「食事を残さずに食べている」と答えた生徒は94%から96%とわずかながら増えている。引き続き様々な場を捉えて指導を行っていく。

【課題】

○食事作りに関わる生徒は60%以上にならなかった。しかし「食事の準備や後片付けの手伝いをしている」と答えている生徒は、42%から52%、「家で家族の人と一緒に、または、一人で食事を作ることがある」と答えている生徒は42%から46%と、少しずつではあるが、取組の成果は出ているので、引き続き取り組む。

6 今後の取組に向けた改善方策について

○今年度作成した計画が計画通り進められるように、栄養教諭が職員及び生徒に働きかけをする。